

# 清高ミニタイムス

北海道清水高等学校  
新聞局  
北海道上川郡清水町  
北2条西2丁目2  
発行責任者  
櫻井 心結

## 彩雲

高体連の新聞をつくり、協議にかける選手たちの熱意や日頃の努力の成果が伝わってきた。目標に向かって努力を続けることの重要性を再認識し、一人一人の挑戦が印象に残る新聞を作ることができた。

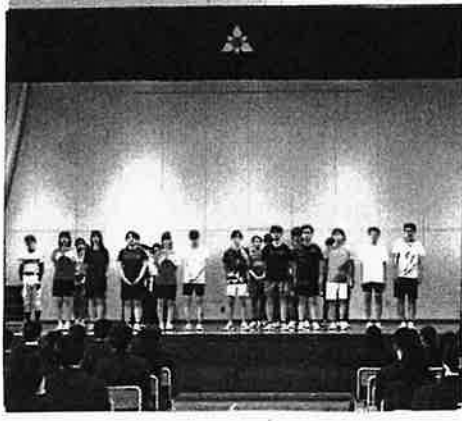
# 高体連を終えて

## 部長たちが振り返る最後の大会への思い

### 〈バドミントン部〉

高体連でバドミントン部が健闘し、好成績を収めた。部長の神山さんはシングルで3回戦まで進出し、「一部に上がってからはなかなか良い成績を残せなかったので、最後に結果を出せて良かった」と振り返った。

神山さんは中学1年生からバドミントンを始め、部長として「部の雰囲気悪くしないこと」や「部員と相談しながら練習メニューを決めること」を心がけてきたという。また、「部活を休まないことも頑張った」と日々の積み重ねの大切さを語った。後輩



↑5月8日 壮行会の様子  
バドミントン部 中央

には「少しでもいいから走ったほうがいい」と基礎体力づくりの重要性を伝え、日々の努力が力になることを強調した。

バドミントン部については「元気が良くて明るい部活と笑顔で話し、仲間と過ごした時間を誇らしげに語った。

### 〈サッカー部〉

サッカー部は高体連で北海道鹿追高等学校と対戦し、惜しくも敗退した。3年生にとって最後の大会ということもあり、「絶対に勝つ」という強い気持ちで試合に挑んだが、勝利にはあと一歩及ばず、悔しさの残る試合となった。それでも選手たちは最後まで声を掛け合いながら全

### 〈陸上部〉

陸上競技部の奈良歩真さんは自身が掲げていた目標を見事に突破し、新記録を打ち立てた。日々のストイックな努力と万全の準備がもたらした栄冠。その舞台裏には独自のモチベーション管理と、苦手に向き合う強い精神力があったと語っている。

大会当日、焦りや不安を一切排除するため、ユニフォームにゼッケンを止めるために力プレーし、これまで積み重ねてきた練習の成果を発揮した。

試合後3年生は「3年間、仲間と共に努力してきた時間は、自分たちにとってかけがえのない大切な経験となった」と語った。また、「俺たちの分も頑張っしてほしい」と後輩たちへエールを送り、今の活躍に期待を託した。



服し、心身ともに隙の無い肉体を作り上げてきた。奈良さんは「今回の結果に満足せず、さらに高見を目指していきたい」と今後の飛躍を誓った。

### 〈バスケットボール部〉

五月二十一・二十二日に行われた、高体連の大会に3年生の4名が、芽室高校との合同チームで出場した。一回戦は上士幌高校と対戦し、98対34で圧勝し二回戦は白樺学園に30対141点で敗れた。

試合後、キャプテンの櫻井心結(みゆ)さんは「集中力が足りず無駄なミスが多かった。ディフェンスも緩かった」と振り返った。

### 〈弓道部〉

第六十一回北海道高等学校弓道競技選手権大会十勝支部大会に出場した清水高校出身の弓道部部长・昏本駆さんに取材した。昏本さんは「とても悔しい結果で残念な気持ちです」と今季を振り返る。試合では強い緊張に包まれ、出番が近づくとつれ落ち着かない状態が続いたという。冷静さを保ちながら行射に臨んだが一本も中らず、「力は出し切



りました。」と語った。嫌いになれば続かないため、常に楽しむことを意識してきたという。

一方「二回戦目では大きく点差をつけて勝てたことや、チームで過去最高得点を取れたことが本当に嬉しかった」と話している。

最後に後輩へ「集中力と精神力が上達の鍵。良い成績を目指してほしい。」と語った。

